



新しい講座のご紹介

まつうら出前講座では平成25年度に行政編も含め7つの講座が増えました。

今年度から始まる新しい講座と講師の皆さんからの案内をご紹介します。

また、まつうら出前講座事務局では、日ごろ身に付けた趣味や特技などを地域の人に教えるボランティア講師になってもらえる人を随時募集しています。

ボランティア講師は自分の趣味や特技を生かして地域に貢献でき、また、教えることで自分自身も「学び」の機会を持つことができます。

興味のある人は問合せ先までご連絡ください。

資格や経験は問いません。

※政治・宗教または営利を目的とした講師登録はできません。

【謝礼金】

● 講師の住所と同一の中学校区内で講義した場合 1,000円

● 講師の住所の中学校区外で講義した場合 2,000円

● 旧松浦市と旧福島町・旧鷹島町の間で講師が移動する場合 4,000円

★陶芸入門

(小皿、湯のみを作ってみませんか)

小皿や湯のみの制作を基礎から教えます。自作の陶器は、また格別ですよ。陶芸のほかにも郷土史や童話の講座も開いています。童話は飽きないよう、郷土史は分かりやすくお話しします。郷土の歴史を知ることが大切です。ぜひ受講してください。



加椎敏郎さん

★韓国ドラマから学ぶ易しい韓国語

文法から韓国語を勉強しようとするのが難しく途中で諦めてしまうことも多いですが、この講座では韓国のテレビ局の韓国語講座DVDを使い、韓国ドラマに出てくる簡単な挨拶から教えます。講座を受講することで、知っている韓国語が増えてくれると嬉しいです。



ソフ・キョンスフ 申敬淑さん

★古代人の暮らし体験：児童向け  
(消しゴム粘土で勾玉作り、貫頭衣・古代編み物作りなど)

この講座では古代のもの作り体験、さらに地域の歴史の話もします。古代人の生活や考え方を学び、現代との違いや共通点にたくさんの驚きを味わってください。皆さんが古代について興味を持ち、ふるさつについて考えるきっかけづくりをしたいです。



林葉月さん【左】  
森恵さん【右】

★竹で楽器を作ろう

バンブーオーケストラの楽器製作を担当しています。講師をすることで、技術を広め、受講した人が演奏することにまで興味をもってもらえるようになればと思います。簡単なものは15分くらいで仕上がりますし、基礎が分かれば応用していろんな種類の楽器が作れますので、気軽に参加してください。



増山靖さん

★鷹島海底遺跡保存処理入門講座

腐食やひび割れのような、病気や怪我をした文化財を治療する病院のような仕事を保存処理といいます。保存処理講座では、実験を交えながら、地中や海中から見つかった文化財をどのように治療するか体験してもらおうと思います。ぜひ受講してください。



文化財課 学芸員  
台澤哲郎

★認知症の方を地域で支えよう  
(認知症サポーター養成講座)

認知症について正しく理解し、温かく見守る応援者が認知症サポーターです。この講座では認知症に関する知識や接し方、支援の仕方についての基礎的な研修を行い、受講者にはサポーターの証として「オレンジリング」をお渡しします。



松浦市地域包括支援センター 保健師  
荒木典子

# 受賞おめでとうございます

各受賞者を紹介します。

## 九州管区行政評価局長表彰

川畑 喜久雄さん

(御厨・平瀬、72)



松浦市担当の行政相談委員、川畑喜久雄さんが、多年にわたる行政相談委員としての功績により、平成25年5月、九州管区行政評価局長表彰を受賞されました。

川畑さんは、平成15年から松浦市担当の行政相談委員に委嘱されており、行政相談所において無報酬のボランティアとして住民から行政上の苦情や要望を受け付けられています。

## (社)日本河川協会 河川功労者表彰

ボランティアグループ  
川西會



▲ボランティアグループ川西會  
西田 武 会員

河川の自然保護・環境学習・河川愛護などの活動に功績があった団体として「ボランティアグループ川西會」が河川功労者表彰を受賞されました。

当団体は、志佐川の美化活動を行うために志佐川の西側にある建設会社で平成16年10月に設立された団体であり、現在は23人で活動されています。

河川里親に認定され、地域住民の貴重なアメニティーの場として愛されている志佐川の美化活動を継続して行っています。

## わたしたちの郷土

— 88 卷 —

### 中世の松浦 (54) 鷹島海底遺跡

平成23年秋に琉球大学の池田教授の研究チームが発見した元の軍船は、報道機関により大々的に知られることとなりました。テレビ番組でも特集が組まれるなど松浦市にとっては明るい話題となったところです。

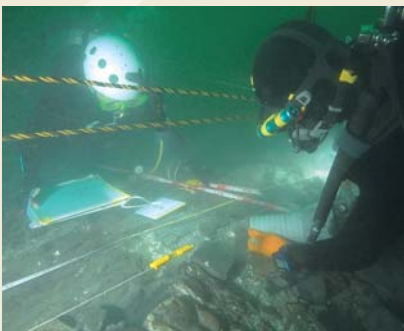
平成24年3月には、鷹島海底遺跡のうち多くの遺物が出土している神崎地区を中心とした、鷹島南岸沖合の海域約38万4千平方メートルが「鷹島神崎遺跡」として国史跡に指定されました。なお、この指定範囲には軍船の発見地点も含まれています。

また、平成24年度には、琉球大学と国史跡鷹島神崎遺跡の学術研究の連携協定を締結し、琉球大学の協力を得て、史跡内の軍船の残存状況調査を6月と9月下旬から10月上旬にかけて実施しました。

その結果、船底を船首から船尾にかけて通すように配置された構造材である竜骨（キール）の長さは約13・5メートルまで確認できましたが、船首および船尾の確定までにはいたりませんでした。

船の主な部材と関連遺物は東西約15メートル、南北約7メートルの範囲に分布していることを確認しました。

平成25年度の調査は別地点で行われます。新たな船の発見になるのでしょうか。期待したいと思います。



▲元の軍船の竜骨部分と部材を調査中の池田教授（左）